

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス 太陽の花		
○保護者評価実施期間	2024年12月 1日		～ 2024年12月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	2024年12月 1日		～ 2024年12月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムについて、立案に関してチーム全員で関わり、またその内容が固定化しないような工夫をしている点は、事業所の強みだと思います。	活動プログラムが固定化しないよう、5領域を網羅できるように児童発達支援管理責任者が実施するプログラムを計画し、全職員がどのような内容で行うかを考える「活動プログラム計画会議」を毎月実施し、日々のミーティングでその内容の振り返りを行っています。継続して行う事が有効なプログラムについては、理由や頻度についても全職員で検討しています。	今年度より個別支援計画や活動プログラムを放課後等デイサービスガイドラインに記載された5領域の視点から、児童のニーズや課題を多角的かつ総合的に分析し、課題解決に向けた支援が求められています。支援に係る職員全員が5領域についての知識をより深めることが必要だと考え、児童発達支援管理責任者による研修会を3月に実施し、次年度以降も定期的な開催を企画していきます。
2	相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関会議には児童発達支援管理責任者が主に参加することで、児童の課題や支援方法、生活等を適切に共有できていることは、事業所の強みだと思います。	相談支援員からの要請に対し、児童発達支援管理責任者が関係者会議等に出席しています。必要があれば、専門職(作業療法士等)の参加も調整しています。児童の生活や活動に際して問題が生じたときは、相談支援員等と情報を共有し、解決に向けた取り組みを随時行っています。	引き続き、関係者会議等では適切な職員が参加できるように調整していきます。相談支援員からの要請だけではなく、児童やご家庭の課題に対して、事業所が主体となり新しいサービスに繋げていけるような取り組みを行ってまいります。
3	ヒヤリハット事例に記録と検討及び改善に向けた取り組みを日々行っていること、虐待防止について法人内で研修を行っていること、身体拘束の原則禁止について職員がその内容を理解し実践できる体制作り等、児童の安全確保が十分にされた中で支援が行われていることは、事業所の強みだと思います。	ヒヤリハット事例については、毎日のミーティングでその状況等を職員全員で確認し、対応した職員が記録を行っています。虐待及び身体拘束に関しては、法人内の委員会が行う研修や勉強会に参加し、また調査の必要性等があれば関係機関との情報共有を行い、解決にむけた取り組みを行っています。	法人内研修だけではなく、虐待や身体拘束に関する外部研修に職員が参加できるよう、環境調整を行って参ります。放課後等デイサービスガイドラインや行政からの情報を職員間で共有できるような工夫を今後検討していきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様同士の交流機会の提供、きょうだい向けのイベントの開催等、家族及びきょうだいへの支援の機会が少ないことが、保護者様向けアンケートにてご指摘を受けました。	今年度入職した職員がほとんどを占めている現状から、日々の支援やプログラムの実施及び事業所としての体制強化への取り組みを優先されていたことが最大の要因だと考えています。	今年度は、職員の育成と業務の安定化、事業所の方向性等を職員全員が共有し日々の支援に繋げていく、といった事業所の基盤を整えて参りました。次年度以降は、保護者様に向けて事業所内で実施している研修や地域の講演会等のご案内とご参加を促す、またご家族やきょうだいの方々も参加できる行事等を企画することで、家族支援を定期的に実施して参ります。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が少ないことが、保護者様向けアンケートにてご指摘を受けました。また地域に開かれた事業所運営ができていない点について職員より意見があがりました。	上記と同様に、地域の方々や地域のこどもたちとの交流機会を作る環境に至っていないことが最大の要因だと考えています。また、季節により感染症等の流行もあり、なかなか交流機会を設けられないという環境も要因としてあげられます。	次年度は、近隣の児童クラブ等と一緒に活動する機会を作っていく予定です。具体的には、運動プログラムややるた大会等を企画し、地域のこども達と一緒に楽しめる場を作り、交流を深めて参ります。また、事業所で行う行事に近隣の方々を招待する、自治会の活動に児童と一緒に参加するという、地域の方々との交流を深めることのできる活動を企画して参ります。児童の地域活動への参加については、保護者様の了承のもと行ってまいります。
3	自立支援協議会等への参加をしていないため、地域の課題を関係機関等と共有し、その課題を踏まえて地域のサービス基盤の整備をすすめていく、といった公共性に乏しく、また関係機関との横のつながりが希薄であることは事業所の課題であると感じています。	当事業所は2022年4月に開設後、職員の定着が進まない等の問題があり、日々の運営を維持することに精一杯であり、自立支援協議会への参加が難しい状況でした。その結果、関係機関との連携が十分に図れず、地域課題の共有や解決に向けた取り組みが進められませんでした。	次年度は引き続き職員の育成と業務の安定化を図り、自立支援協議会や関係機関との連携を強化します。自立支援協議会への参加を通して、地域課題の把握と情報共有を行い、地域サービスの充実に貢献できるよう取り組んで参ります。